

富山県教育委員会教育長 殿

学 校 名 富山県立上市高等学校
校長氏名 前原 五輪雄

2024年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

2024年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

(1)生活指導

- ①基本的な生活習慣を確立し遅刻回数を減少させるために、毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとった。昨年より引き続き、生徒玄関にディスプレイを設置し身だしなみの啓発なども併せて行った。遅刻については昨年度より、全体で-12.7%の減であるが、引き続き粘り強く指導していく必要がある。
- ②スマートフォンによる SNS のトラブルを減少させるために、ネットトラブル教室など外部講師を招いての説明会を行ったり、日頃の使用について呼びかけを強化したりした。スマートフォンに関する使用規定違反は減少しているが、SNS を通じた生徒間のトラブルはまだ相当数みられる。

(2)教科指導

基礎学力の定着に向けた学び直しの時間を各教科の中に位置づけて実施した。また、基礎力診断テストを1年次には年3回、2年次には年2回、3年次には年1回取り組ませ、客観的な数値を確認する整備を行った。各授業での学び直しの取り組み状況について、92.4%の生徒が学び直しが重要であると感じており、84.6%の生徒が意欲的に取り組んだと述べている。94.5%の生徒が今後も学び直しが必要だと感じており、そのニーズに応えていきたい。

(3)進路指導

- ①上市町と連携し上市高校キャリア教育プログラム「職業を知る会」、「職場見学」、「インターンシップ」に加え今年度は新たにキャリアバイトという本校独自の取り組みを行った。キャリアバイトでは延べ32人の生徒が企業で賃金を得ながら就業体験を行った。参加した生徒からは、進路や個人の得意分野などに関する気づきを多く得られたとの声が上がった。
- ②進路意識向上のため、生徒参加型「進路ガイダンス」を継続的に実施し、全生徒が参加するよう取り組んだ。生徒は個々の希望にあったブースに参加できたことで、社会人になるための基本的な考え方を深く学ぶことが出来た。就職や進学に関する情報や職場見学・オープンキャンパスなど体験型の行事への参加を促したが、参加者の正確な数値を把握できていなかった。

(4)特別活動

- ①「体育大会」、「マラソン大会」、「文化活動発表会」を実施した。上市高校の生徒の様子について保護者や地域住民など外部の方にも広く知って頂く良い機会となった。郊外でのボランティア活動の参加者は延べ171名であり、達成目標を上回り、地域の人々に喜ばれた。
- ②部活動について、生徒に行った「部活動アンケート」では、個人目標を達成した生徒が全校平均で昨年は68%であったが、今年は56%と低くなった。昨年度入学生から部活動の加入を希望制としているが、部活動の活性化にはつながっていない。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1)学校生活

- ①規範意識を向上させるために、家庭と連携しながら、規則的な生活を送らせるための「家庭における生活のルール作り」(SNS の使い方、起床時間、就寝時間、学習時間等)について話し合いを通じて保護者・生徒とともに考えていきたい。
- ②遅刻が多い生徒の状況を改善したり、SNS に関するトラブルを減らしたりするために、生徒主導による意識改革を図りたい。来年度以降計画している人間関係スキル向上のプログラムを通じて人間関係スキルを高めたい。

(2)学習活動

- ①基礎学力の定着を図るための「学び直し」において、各教科で達成したい力を整理し、教科横断的に基礎力を定着させる枠組みを構築する。
- ②「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「課題研究」を一体として地域課題の研究に取り組み、教科を横断して学んだことを発展的に研究につなげられる力を身につけさせる。

(3)進路支援

- ①上市高校キャリア教育プログラムを継続的に実施してきたことで地域の方に認識してもらえるようになってきた。キャリアバイトを更に深化させ、既存の許可制アルバイトとの統合・整理などを行い、的確なキャリア教育の一環となるよう整備していく。
- ②就職・進路に関する生徒情報についてデータ化をすすめ、生徒の実態をより明確に把握できるデータベースの構築を図り、より個々にあった進路指導が行えるようにする。

(4)特別活動

- ①学校行事の主体者は生徒であることを生徒自身が自覚できるように、あらゆる行事で生徒会が中心となり、生徒が主体となるような運営を支援する。
- ②部活動が活発化するように、特別活動委員会を有効に活用し、その方策について具体的に検討する。また学園祭の通年化に向けて協議を進めていく。